

新聞に掲載された入浴関連記事のテキスト分析

－ 震災前後の内容比較 －

森 亜未¹⁾, 芦澤 亜里紗²⁾, 松本 綾奈³⁾, 大島 裕明⁴⁾, 川崎 優子⁵⁾

要 旨

【目的】

新聞記事の中で健康に関わる入浴ケアに関する記事がどのように伝えられているかを明らかにすること。

【方法】

毎日新聞社が発行した2010年から2012年までの全記事（デジタル版）を対象として、「入浴」という語を含む記事を抽出し、内容分析の手法を用いて記事内容を分類した。

【結果】

「入浴」という語を含む記事426件の中で、健康に関わる入浴ケアに関する記事のみ収集すると144件であった。健康関連入浴記事について内容分析した結果「介護における入浴ケア」、「疾患を抱える方の入浴との向き合い方」、「健康と入浴の関連性」、「入浴の意義」、「災害時の入浴環境」、「その他」の6つのカテゴリーが挙げられた。記事件数としては、「災害時の入浴環境」が56件と最多であった。入浴に関する記事の掲載紙面としては、社会面が46件と最多であった。

【結論】

新聞記事の中で入浴関連記事を抽出したところ、介護・健康/疾病と入浴ケアとの関連性・入浴の意義・災害時の入浴環境の記事が抽出された。新聞記事の特徴としては、個別性の高い情報は掲載されず、災害時に信頼性のある情報を発信することで、社会の認識を変化させる役割を担っていることがわかった。

キーワード：新聞、入浴、セルフケア行動

1) 兵庫県立大学看護学部4年
 2) 元兵庫県立大学大学院情報科学研究科博士前期課程
 3) 元兵庫県立大学大学院看護学研究科博士前期課程
 4) 兵庫県立大学情報科学研究科
 5) 兵庫県立大学看護学部治療看護学

I. 諸 言

入浴は、身体を清潔な状態に保つことだけでなく、疲労回復、血行促進、心身機能向上、リラクセスによる精神的な安定など、さまざまな効果があるといわれている。特に、習慣的な温泉入浴は、女性の高血圧症予防、男性の心血管疾患予防と結腸がん生存率の促進などの効果があることが示されている (Maeda T, 2018)。また、日本人の多くは日常的に入浴する習慣を持っており、入浴が心身のリフレッシュに役立つという認識から、生活の一部として大切にしている現状がある。また、入浴することで亢進した交感神経系を鎮静させ、副交感神経活動 亢進への転換を促し、結果的に入眠潜時の短縮が引き起こされる可能性が示唆されている (大平ら, 2019)。このように入浴は、様々な効果をもたらすものである。

セルフウェルネスとは、自分の身体に関心を向け、自身の価値観に基づいた情報をもとに、well-beingを探求し、自分らしい生き方を実現するための行動である。今回は、人々が、自身の健康の維持増進に関してどのような情報を受け取り、セルフケア行動に繋げているのかについて、情報の性質に焦点化することにした。新聞記事の中で健康に関わる入浴ケアがどのように伝えられているか明らかにし、健康に関わる情報のコミュニケーション戦略に役立てることとした。さらに、震災前後の入浴ケアに関する情報の伝え方が変化しているか比較検討した。

II. 研究の目的

新聞記事の中で健康に関わる入浴ケアがどのように伝えられているかを明らかにすること。

III. 方 法

1. 対象

毎日新聞社が発行した2010年から2012年までの記事データ集 (デジタル版)。

2. 分析方法

2010年から2012年までの記事において、テキスト分析

を行った。新聞記事の本文全文をデータベース化し、文字列一致によって検索することができるようにした後、「入浴」というキーワードを含む記事を検索した。単語の出現頻度をカウントし、全体的なボリュームを明らかにした。その後、入浴に関する記事の中から、健康に関わる入浴ケアに関する記事を抽出した。最後に、情報発信の内容やコミュニケーション戦略に変化があるかを分析した。

IV. 結 果

1. 入浴に関する記事の内容

今回、「入浴」という語を含む記事426件の中で、入浴がメインではなく要素として組み込まれている記事、入浴施設の情報を羅列した記事、殺人事件に関する記事を除外し、健康に関わる入浴ケアに関する記事のみ収集すると144件であった。この144件を対象に内容分析したところ、6つのカテゴリー (表1) が抽出された。

カテゴリーの内容は表1のとおりである。以下、カテゴリーを「」、サブカテゴリーを<>で表記した。

1) 介護における入浴ケア

「介護における入浴ケア」では、介護施設やサービスにおける記事が分類された。<入浴ケアの安全性>では、介護職員同士で入浴の練習をする様子が利用者家族目線でまとめられていたり (新聞記事, 2010a)、要介護者でも旅行を楽しめるようにと事前準備に力を入れる様子 (新聞記事, 2010b) がまとめられていたりする記事であった。<最新機器の開発と活用>では、ケアにロボットを導入することで快適さを追求する (新聞記事, 2011a; 新聞記事, 2012a) という記事であった。<入浴サービスに関する他国との違い>では、高齢者福祉の先進国である欧米諸国と日本の介護サービスの質や回数の違い (新聞記事, 2010c; 新聞記事, 2012b) という記事であった。<入浴サービスの重要性>では、入浴の訪問サービスがあることで、在宅介護ができるようになった感謝 (新聞記事, 2011b) の記事であった。

2) 疾患を抱える方の入浴との向き合い方

「疾患を抱える方の入浴との向き合い方」では、疾患を

表1. 健康に関わる入浴ケアに関する記事の分類

カテゴリ	サブカテゴリ
介護における入浴ケア	入浴ケアの安全性
	最新機器の開発と活用
	入浴サービスに関する他国との違い
	入浴サービスの重要性
疾患を抱える方の入浴との向き合い方	乳がん患者の入浴の楽しみ方
	認知症高齢者の入浴に関する困難
	入院中の入浴体験
	障がい者のための入浴支援
	性分化疾患患者の入浴に関する困難
健康と入浴の関連性	労働環境や貧困からの入浴の阻害
	健康増進を目的とした入浴
入浴の意義	日常生活や文化としての入浴
	癒しとしての入浴
	観光やレクリエーションとしての入浴体験
	入浴剤の楽しみ方
	入浴に伴うコミュニケーションの活性化
災害時の入浴環境	災害者支援における入浴の重要性
	避難所での入浴支援に関する取り組み
	災害後の入浴環境
	災害要配慮者の入浴における困難
	被爆者への差別
	防災としての入浴対策
	入浴できないことによる疾患への影響
その他	育児における入浴
	地方自治体の取り組み
	入浴事故
	入浴の時代背景
	保護施設や刑務所での入浴事情

抱える中、入浴をどのように実施するかに関する記事が分類された。＜乳がん患者の入浴の楽しみ方＞では、乳がん手術により見た目の変化が生じている中でも温泉を楽しむために実施している、もしくは実施して欲しい工夫が書かれた記事であった（新聞記事, 2010d；新聞記事, 2010e；新聞記事, 2010f）。＜認知症高齢者の入浴に関する困難＞では、入浴をなかなかしない認知症高齢者を介護する家族のストレスが書かれた記事であった（新聞記事, 2012c；新聞記事, 2012d）。＜入院中の入浴体験＞

では、治療経過で洗髪ができるようになった喜びや（新聞記事, 2012e）、医療者の伝え方により、入浴行為を怖いものとして患者が捉えてしまったケース（新聞記事, 2012f）などの記事であった。＜障がい者のための入浴支援＞では、自立した生活をするために入浴訓練を行っている様子が書かれた記事であった（新聞記事, 2012g；新聞記事, 2011c）。＜性分化疾患患者の入浴に関する困難＞では、大浴場で裸を見られたことがきっかけで、自身の性と向き合い、疾患の理解を求めるように

なる様子が書かれていた記事であった(新聞記事, 2010g)。

3) 健康と入浴の関連性

「健康と入浴の関連性」では、入浴と健康要素との繋がりにおける記事が分類された。＜労働環境や貧困からの入浴の阻害＞では、労働環境や貧困を理由に入浴ができなかったために生じた健康障害について書かれた記事であった(新聞記事, 2012h; 新聞記事, 2011d; 新聞記事, 2010h)。＜健康増進を目的とした入浴＞では、冷え性(新聞記事, 2010i; 新聞記事, 2010j; 新聞記事, 2010k)や肩こり(新聞記事, 2012i)、乾燥(新聞記事, 2011e)などの対して日々の入浴から得られる健康効果の記事であった。

4) 入浴の意義

「入浴の意義」では、日常の中での入浴や特別な日の入浴をどう過ごしているのかに関する記事が分類された。＜日常生活や文化としての入浴＞では、清潔習慣の確立による昔との違い(新聞記事, 2010l)や、他国と比較した日本人の入浴の習慣について(新聞記事, 2012j)書かれた記事であった。＜癒しとしての入浴＞では、入浴をすることによりリラックスをし、精神的健康の向上が図られることが書かれた記事であった(新聞記事, 2011f)。＜観光やレクリエーションとしての入浴体験＞では、ツアーに温泉施設導入したり(新聞記事, 2010m; 新聞記事, 2011g; 新聞記事, 2011h)、季節に関する入浴イベントを開催したりしている様子(新聞記事, 2012k; 新聞記事, 2011l)が書かれた記事であった。＜入浴剤の楽しみ方＞では、入浴剤を入れるタイミング(新聞記事, 2011i)や、新しい入浴剤の販売について(新聞記事, 2010n; 新聞記事, 2010o)書かれた記事であった。＜入浴に伴うコミュニケーションの活性化＞では、親子で一緒に入浴をすることで親密感が増加し、様々なことを語り合える様子(新聞記事, 2011j)が書かれた記事であった。

5) 災害時の入浴環境

「災害時の入浴環境」では、災害発生時の入浴に関する問題点や支援法について、東日本大震災時の出来事を中心に書かれてある記事が分類された。＜災害者支援に

おける入浴の重要性＞では、被災後で苦しい生活をしている中、入浴ができたことにより疲れが癒されている様子(新聞記事, 2011k; 新聞記事, 2011l)や、入浴したいという気持ちが活力になっている様子(新聞記事, 2011m)が書かれた記事であった。＜避難所での入浴支援に関する取り組み＞では、自衛隊や企業が被災者のために入浴環境を提供している様子(新聞記事, 2011n; 新聞記事, 2011o; 新聞記事, 2011p)が書かれた記事であった。＜災害後の入浴環境＞では、入浴がなかなかできない現状(新聞記事, 2011q; 新聞記事, 2011r)や避難所ごとの入浴サービスの格差(新聞記事, 2011s)が書かれた記事であった。＜災害要配慮者の入浴における困難＞では、入浴介助者の人手不足で災害要配慮者が入浴することが難しい現状(新聞記事, 2011t)や、障がい者施設に入居できず避難所生活が長引いている様子(新聞記事, 2011u)が書かれた記事であった。＜被爆者への差別＞では、被爆者ということだけで不当に銭湯での入浴を拒否されたこと(新聞記事, 2011v)や、被爆地にある温泉施設の利用に関すること(新聞記事, 2012m)が書かれた記事であった。＜防災としての入浴対策＞では、入浴中に災害が起こった場合の想定(新聞記事, 2012n)や、避難生活疑似体験に入浴を含める必要性(新聞記事, 2010p)が書かれた記事であった。＜入浴できないことによる疾患への影響＞では、被災地で入浴ができなかったために皮膚炎が悪化してしまう様子(新聞記事, 2012o)や被災者向けの生活不活発病注意喚起のリスト項目に入浴が含まれていたこと(新聞記事, 2011w)が書かれた記事であった。

6) その他

「その他」では、以上のカテゴリーには分類されない記事として分類された。＜育児における入浴＞では虐待防止のためのプログラム(新聞記事, 2011x)や育児休暇取得中に夫が我が子を入浴させている様子(新聞記事, 2012p)が書かれた記事であった。＜地方自治体の取り組み＞では、入湯税の徴収開始(新聞記事, 2010q)や、選挙投票証明で温泉施設の割引など自治体に関連している様子(新聞記事, 2010r; 新聞記事, 2012q)が書かれた記事であった。＜入浴事故＞では、虐待により入浴中に溺死してしまったケース(新聞記事, 2011y; 新聞記事,

表2. 健康に関わる入浴ケアに関する記事の掲載紙面

カテゴリ	介護における入浴ケア	疾患を抱える方の入浴との向き合い方	健康と入浴の関連性	入浴の意義	災害時の入浴環境	その他	合計
1面	2	—	—	—	3	1	6
2面	—	—	—	—	1	1	2
3面	—	—	—	—	3	—	3
解説	—	—	—	—	—	1	1
社説	—	—	—	—	1	—	1
経済	1	1	—	—	—	1	3
特集	1	—	—	3	1	—	5
総合	—	2	2	2	9	2	17
家庭	3	9	15	7	4	5	43
読書	—	—	—	1	—	—	1
科学	—	—	—	1	1	—	2
芸能	—	—	1	—	—	—	1
スポーツ	—	—	—	—	13	—	13
社会	1	—	1	6	20	18	46
合計	8	12	19	20	56	29	144

2011z) や高齢者が入浴中に滑ったり、前後の温度変化により体調を崩したりするケース（新聞記事, 2012r；新聞記事, 2010s）が書かれた記事であった。＜入浴の時代背景＞では、戦時中の入浴体験（新聞記事, 2012s；新聞記事, 2012t）や、安土桃山時代に使われていたお風呂が発見されたこと（新聞記事, 2010t）が書かれた記事であった。＜保護施設や刑務所での入浴事情＞では、性同一性障害の受刑者の入浴に関する困難（新聞記事, 2012u；新聞記事, 2012v）が書かれた記事であった。

2. 記事数の比較入浴に関する記事の内容

各カテゴリに含まれる記事の総数は、表2に示すとおりである。記事件数は多い順に「災害時の入浴環境」、「その他」、「入浴の意義」となった。「災害時の入浴環境」に関する記事が一番多く、他のカテゴリの記事数と比

較しても圧倒的に多かった。「介護における入浴ケア」では、介護に関する記事は多く見受けられたが、入浴に焦点をあてている記事は少なく、8件という結果となった。また、今回の研究目的である「健康と入浴の関連性」の記事数は19件であり、計144件の記事数の19/144件（13%）であった。

次に記事掲載紙面による記事数を比較する。入浴に関する記事が確認できたのは、計17面であった。入浴に関する記事は、総合面、家庭面、スポーツ面、社会面において掲載されていることが多いことがわかった。最も多かったのは、社会面であり記事数は46件（32%）であった。社会面、家庭面、総合面は様々なカテゴリが分布しているが、スポーツ面は「災害時の入浴環境」の記事しか見られなかった。実際に記事を確認してみると、自衛隊や企業からの災害支援や入浴物資の募集、入浴でき

る施設の情報一覧などであり、スポーツとは無関係のものが多く見られた。また、国際面、文化面、生活面では入浴に関する記事は見られず、他の名称に分類されてしまうケースが多かった。

V. 考 察

1. 災害時の入浴環境に関する記事動向

今回は2010～2012年の新聞を分析対象としたところ、「健康と入浴の関連性」についての記事数が占める割合は19/144件（13%）であり、少ない傾向であった。最も多い割合を占めたのが、「災害時の入浴環境」が56/144件（39%）であった。

「災害時の入浴環境」に関する記事が多く見られた要因は、東日本大震災による影響だと考えられる。今回収集した新聞記事は、2010年から2012年のものであり、東日本大震災が発生した時期と重なる。そのため、「災害時の入浴環境」に分類した記事の大半が東日本大震災に関連するものであった。大規模災害発生時は様々な混乱が生じるため、情報が錯乱しやすい。どの情報を信用したらよいかかわらなくなる中で、新聞記事では被災後の入浴サービスや課題に関する正確な情報が随時掲載されていた。東日本大震災で役に立った情報源（複数回答可）の調査結果では、テレビ（89.9%）、ニュースサイト（56.3%）、新聞（44.3%）と報告されている（総務省, 2014）。これは、今回収集した記事も対象に含まれており、新聞は3位となっている。取材力に基づいた信頼性が支持されており、新聞は正確な情報を提供してくれるツールとして重宝されている。

「災害時の入浴環境」に関する記事では、現地の被災者の声、自衛隊／企業／ボランティアによる支援の現状、災害要配慮者が入浴することの困難さが掲載されていた。読者は、これらの記事により災害発生時の状況がどうなっているのかを正確に詳しく知ることができる。「健康と入浴の関連性」の記事では、専門家や経験者など複数の人に取材した入浴効果や体験が詳しく掲載されていた。このように、新聞記事の役割は、社会の中で起る現象を取材により客観的な事実として正確に伝えるという特性がある。そのため、個別性の高い情報は掲載されていないということがわかった。

一方、新聞発行部数や利用者は年々減少している。発行部数の推移としては4932万部→3509万部（2010年→2020年）、新聞の購読者率は84.5%→61.3%（2010年→2020年）と報告されている（一般社団法人日本新聞協会, 2024；公益財団法人新聞通信調査会, 2023）。新聞の利用率は減り、情報入手手段として他のツールが活用されていると予測される。主なメディアの平均利用時間に関する調査結果では、テレビ170.6分→135分（2014年→2023年）、インターネット83.6分→194.2分（2014年→2023年）、新聞12.1分→5.2分（2014年→2023年）と変化している（総務省情報通信政策研究所, 2025）。テレビ、新聞は減少しているが、インターネットは大幅に増加している。インターネットの普及により、新しい情報入手手段が浸透しつつあると考える。また、情報源としての重要性に関する調査結果では、新聞の重要度は77.3%→44.3%（2010年→2025年）に対し、インターネットでは61.4%→81.5%（2010年→2025年）であった（総務省, 2011；総務省情報通信政策研究所, 2025）。新聞は33%と大幅に減少しているが、インターネットは20.1%と増加している。インターネットに対する世間の認識が変化していることがわかる。インターネットは多様な媒体で即時に情報を入手できることや、双方向性があり便利なことから普及が進み情報収集に使われるようになった。しかし、若年層はインターネット利用率が高いが、高齢者は低い傾向にある。2023年の月ぎめで新聞をとっている人の割合に関する調査結果では、70代以上が82.7%、60代が68.2%、50代が56.7%、40代が39.4%、30代が31.5%、20代が33.8%と報告されている（公益財団法人新聞通信調査会, 2023）。このように、情報入手のツールとして、インターネットは普及しているが、高齢者はまだ新聞からの情報収集が主流であると考えられる。

新聞購読者が、2010年と2020年では変化してきていることから、現在は世代に応じた情報発信ツールが活用されていることが予測される。

2. 入浴ケアに関する情報発信

入浴は日常的なことではあるが、疾患を抱えた方にとってはセルフケアだけでは実現が困難であり、支援が必要なこともある。今回分類されたカテゴリーの中で

「介護における入浴ケア」と「疾患を抱える方の入浴との向き合い方」が個性のある情報が掲載されていた。

介護における入浴介助では、大きな負担が伴う。ADL項目ごとの介護負担を看護師に調査した結果、夜間の排泄と入浴に関する項目で負担が大きかったと報告されている（山本ら, 2022）。近年、入院期間の短縮が進んでいる中、在宅で過ごす人、施設で過ごす人を支える介護者の負担を減らすことは重要視される。入院期間を経て在宅に戻る場合、退院前に個別訪問を実施し、浴室の改造や入浴リハビリ機器の導入を実施したり、入浴方法の指導・助言や機器の紹介をしたりするケースもある（藤井ら, 1992）。しかし、コロナ禍の影響で医療者が充分に入浴指導を本人や家族にできていないケースが増加した。そのような方に対し、通所リハビリテーションで更衣・入浴練習は介護職員が主に実施し、自宅での入浴介助力軽減につながり、入浴サービスのない短時間通所介護への移行が早期に実現できたとの報告もある（明福ら, 2023）。このようにセルフケアに直結する内容は、専門職から受け取っていることが予測される。今回収集した記事の中には、負担が大きいケアラーへの支援を訴えるものや介護要員不足のため実施することが困難な課題を解消するためのロボット開発の推進に関するものがあり、入浴に関わる課題がクローズアップされていた。入浴に関するセルフケア記事としては、在宅療養者の入浴に関わる記事があり、当事者目線からの課題について、記事として取り上げられていた。これは、セルフケアに直結はしないものの、社会の理解を深めるための情報発信といえる。

疾患を抱えている方も、その病状に応じたケアが必要となってくる。乳がん患者の場合、手術に伴う外見の変化がみられることから、入浴との関連性について取り上げられていた。乳がん患者の退院支援に関する研究では、入浴時の低刺激の石鹸の使用など、日々の生活の中で実践できるリンパ浮腫予防のための知識を得ることは安心感につながり、満足度に影響することが報告されている（城丸ら, 2023）。このように具体的な入浴時の工夫は新聞記事では見られず、介護と同様に新聞からではなく、専門職を経由した退院支援等で情報を入手すること

が主流である。

さらに、乳がん患者が周囲の人が変化した自己の身体をみて驚くと思い、手術部位をかくすセルフケア行動をしていたとの報告がある（井関ら, 2018）。周囲が疾患に対する知識がないことにより、当事者が辛い思いをすることを減らすためにも、新聞での読者への問いかけは周知方法として有効である。新聞では困難さの周知だけではなく、知識の提供や啓発活動にも繋がっていると考えられる。乳がんの手術をした方にも温泉を楽しんでいただけの環境作りに取り組む活動が記事の中で紹介されていた。その中の1つとして、専用入浴着は、乳がん、腫瘍、皮膚移植等の皮膚に重大な傷等の残る手術を受けた方々が同浴者の目を気にすることなく入浴が楽しめるように、傷跡をカバーするために開発・製造された専用の入浴着であり、着用したまま温泉に入ることができる（認定NPO法人J.POSH, 2014）。このような商品があることを新聞で紹介することで、少しでも多くの人に知ってもらえることができる。新聞は、各々のセルフケア行動に役立つという役割ではなく、大衆向けの情報提供をすることで誰もが過ごしやすい社会を作ろうとしているのではないだろうか。

このように、新聞は、当事者のセルフケア方法を具体的に発信するのではなく、様々な課題や対策を社会へ発信し、人々の認識に変化を起こす役割がある。

VI. 結 論

新聞記事の中で健康に関わる入浴ケアに関連する記事を抽出したところ、介護・健康/疾病と入浴ケアとの関連性・入浴の意義・災害時の入浴環境の記事が抽出された。新聞記事の特徴としては、個性の高い情報は掲載せず、災害時に信頼性のある情報を発信することで、社会の認識を変化させる役割を担っていることがわかった。

利益相反

本論文に関して開示すべき利益相反はない。

文 献

- 井関千裕, 阿部恭子(2018). 術後放射線治療を受ける初発乳がん患者のセルフケア行動. 調査研究ジャーナル, 7, 111-120.
- 一般社団法人日本新聞協会(2024). 新聞の発行部数と世帯数の推移. <https://www.pressnet.or.jp/data/circulation/circulation01.php>
- 大平雅子, 山田雄大(2019). 運動後の入浴方法の違いが睡眠の質に及ぼす影響. 日本健康開発雑誌, 40, 31-38.
- 公益財団法人新聞通信調査会(2023). 月ぎめ新聞の購読状況は. 第16回メディアに関する全国世論調査.
- 城丸瑞恵, 水谷郷美, 佐藤明紀ほか(2023). 乳がん患者の退院支援内容に関する知識と病棟看護師から受けた退院支援内容・方法・満足度. 北日本看護学会誌, 25, 19-29.
- 新聞記事(毎日新聞デジタル版). (2010a). 10月6日朝刊13面, (2010b). 7月3日夕刊1面, (2011a). 1月13日朝刊8面, (2012a). 10月25日朝刊10面, (2010c). 11月28日朝刊1面, (2012b). 4月19日朝刊13面, (2011b). 9月19日朝刊13面, (2010d). 11月25日夕刊12面, (2010e). 7月18日朝刊13面, (2010f). 8月8日朝刊13面, (2012c). 5月21日朝刊13面, (2012d). 7月8日朝刊13面, (2012e). 12月28日朝刊13面, (2012f). 6月27日朝刊13面, (2012g). 7月12日朝刊13面, (2011c). 8月25日夕刊12面, (2010g). 11月2日朝刊13面, (2012h). 10月22日朝刊13面, (2011d). 5月5日朝刊13面, (2010h). 1月3日朝刊41面, (2010i). 3月5日朝刊13面, (2010j). 12月3日朝刊13面, (2010k). 12月24日朝刊13面, (2012i). 11月7日朝刊13面, (2011e). 1月25日朝刊13面, (2010l). 8月6日夕刊12面, (2012j). 2月2日朝刊13面, (2011f). 5月7日朝刊13面, (2010m). 8月16日朝刊10面, (2011g). 9月24日朝刊10面, (2011h). 9月19日朝刊16面, (2012k). 2月10日朝刊41面, (2012l). 2月12日朝刊41面, (2011i). 1月26日朝刊13面, (2010n). 1月14日朝刊41面, (2010o). 7月11日朝刊13面, (2011j). 2月13日朝刊13面, (2011k). 3月29日朝刊1面, (2011l). 3月30日朝刊41面, (2011m). 4月9日朝刊41面, (2011n). 6月22日夕刊1面, (2011o). 3月15日朝刊12面, (2011p). 5月3日朝刊12面, (2011q). 4月16日朝刊2面, (2011r). 4月27日夕刊3面, (2011s). 4月5日朝刊41面, (2011t). 6月10日朝刊35面, (2011u). 10月6日朝刊41面, (2011v). 9月13日朝刊3面(2012m). 11月23日朝刊12面, (2012n). 2月23日夕刊12面, (2010p). 10月20日朝刊13面, (2012o). 9月4日朝刊16面, (2011w). 9月26日朝刊35面, (2011x). 4月28日朝刊4面, (2012p). 8月16日朝刊8面, (2010q). 9月11日夕刊41面, (2010r). 7月1日朝刊41面, (2012q). 12月5日朝刊41面, (2011y). 6月6日朝刊41面, (2011z). 7月4日朝刊41面, (2012r). 4月28日朝刊12面, (2010s). 11月20日夕刊41面, (2012s). 3月8日朝刊13面, (2012t). 3月9日朝刊13面, (2010t). 4月29日朝刊41面, (2012u). 2月25日朝刊41面, (2012v). 2月25日夕刊41面.
- 総務省(2011). 平成23年版情報通信白書. <https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/h23/pdf/23honpen.pdf>
- 総務省(2014). 東日本大震災時等における災害情報伝達について. https://www.soumu.go.jp/main_content/000280552.pdf.
- 総務省情報通信政策研究所(2025). 令和5年度情報通信メディアの利用時間と情報行動に関する調査報告書. https://www.soumu.go.jp/main_content/000952987.pdf
- 認定NPO法人J. POSH(2014). ピンクリボン温泉ネットワーク. <https://www.j-posh.com/activity/spa/>
- 藤井智, 畠中泰司, 中石睦ほか(1992). 在宅重度障害者の入浴指導における一考察. 理学療法学, 19(1), 64-68.
- Maeda, T., Mimori, K., Suzuki, S., et al. (2018). Preventive and promotive effects of habitual hot spa-bathing on the elderly in Japan. 2018Jan, 9;8(1), 133
- 明福真理子, 買手登美子, 加藤恵ほか(2023). 通所リハビリテーションから通所介護への移行が実現した人工股関節置換後の認知症高齢者への支援. 石川県作業療法学術雑誌, 32, 19-23.
- 山本恵利香, 佐々木秀一, 前田美沙樹ほか(2022). 回復期リハビリテーション病棟における脳血管疾患患者の自宅退院3ヵ月後の本人と主介護者のHRQOLに影響を与える因子の検討. 作業療法, 41(6), 741-745.

Text Analysis of Bathing-Related Newspaper Articles – Comparison of contents before and after the earthquake –

Mori Ami¹⁾, Ashizawa Arisa²⁾, Matsumoto Ayana³⁾, Ohshima Hiroaki⁴⁾, Kawasaki Yuko⁵⁾

Abstract

[Purpose] To clarify how articles on bathing care related to health are conveyed in newspaper articles.

[Methods] All articles (digital versions) published from 2010 through 2012 by The Mainichi Newspapers Co., Ltd. were searched using the keyword “bathing.” Content analysis was used to classify the content of identified articles.

[Results] Of the 426 articles identified with the keyword “bathing,” 144 described health-related bathing care. The following six categories were identified as a result of content analysis: “bathing care in nursing care,” “how people with illnesses tackle bathing,” “correlation between health and bathing,” “significance of bathing,” “bathing facilities during disasters” and “other.” The highest number of articles was observed for “bathing facilities during disasters,” with 56 articles identified. The most common section for publishing bathing-related articles was the “Society” section, accounting for 46 articles.

[Conclusion] When extracting bathing-related articles from newspaper articles, pieces on “the relationship between caregiving/health/illness and bathing care,” “the significance of bathing,” and “bathing environments during disasters” were identified. Characteristics of newspaper articles revealed that they do not publish highly individualized information and, during disasters, play a role in changing societal perceptions by disseminating reliable information.

Key Words: Newspaper, Bathing, Self-care behavior

1) Fourth year, College of Nursing Art and Science, University of Hyogo

2) Former Date Science, Master Program, Graduate School of Information Sciences, University of Hyogo

3) Former Oncology Nursing, Master Program, Graduate School of Nursing Art and Science, University of Hyogo

4) College of Information Sciences, University of Hyogo

5) Clinical Nursing, College of Nursing Art and Science, University of Hyogo